他人事とは言い切れない

妻子に見捨てられた男の老後

さまざまな事情で家族と離れ、孤独なひとり暮らしの高齢者が増えている。若い頃は「自由でよかった」が、老いてしまうと、病気になった時の介護はおろか、死んでも誰も気付いてくれない。20年後の自分がこうでなければいいが……。

20年後は717万人の独居老人

〈遺骨はいりません。そちらで処分してください〉

民生委員の男性（74）がようやく見つけた連絡先に電話すると、迷惑そうに“元家族”がこう答える。今どき当たり前の光景だという。

日本の世帯数の将来推計（別表参照）では、2030年は全世帯の約4割に当たる1824万世帯が単身世帯だ。そのうち65歳以上が約717万人。その頃の65歳以上人口が約3500万人だから、5人に1人という“高確率”で孤独なひとり暮らしが待っている。

〈自分には妻子がいるから大丈夫だ〉

しかし、これから妻子に愛想を尽かされて離婚を用意してくれる妻はいないし、足を悪くしても病院まで運転してくれる人は、いざ、「消えた100万人」が問題になった理由が、最後は社会に救いを求めるとは皮肉なものだが、こんな人たちにより悲惨なのは、団塊ジュニアの40歳前後の中年たちだ。この世代は、ゆとり教育でもなく、非常に優秀なんが多いが、生まれた時代が悪かった。

「就職氷河期で正社員かあるあれ、男性の生涯未婚率は3割、女性も2割です。結婚しないなら、幼い娘の面倒に（自分が代わってやりたい）と心を痛める親としての責重なる体験もできない。月一万5000円の国民年金の保険料は無年金。同じ無年金でも、払う気のない暴力団員とは違います。しかし、彼らが老後に市役所へ生活保護を申請しに行っても、〈身内に頼るかなかなか受けさせない〉

（上原会長談・前出）

生活保護受給者が200万人を突破し、国は先日、保護費減額の検討に入った。自衛のため、茨城県龍ヶ崎市にある「シニア村」のようなコーポラティブハウス（住人が資金を出し合って建設する共同住宅）に入居するのも手だ。老人ホームと違って入居制限はなく、ひとり暮らしの女性も入居している。上原氏が運営する「全労協」のような相談窓口も、穏極的に活用したい。

ずいぶん昔のことのようだが、「消えた100万人」の問題になったのは、昨年のこと。所在不明の100歳以上が全国に23万人もいた。年金を不正給付している家族は論外だが、驚いたのは、年老いた親がどこで何をしているかに関心のない子が大勢いたこと。

家族のない人も同じ。誰にもみとられず、戸籍上だけが生き続ける可能性もある。

いでしょう、昔の仲間？あっちも連絡されるのを嫌う。「自業自得です」

将来に不安を抱えている40代、50代ヤクザは多いらしい。浄土真宗本願寺派僧侶で作家の向谷匡史氏がこう言う。

「学歴がない、そもそも保証人になってくれそうな親や兄から（一度と顔を見せるな）と見放されているため、再就職すらできない。50歳になる頃、先輩ヤクザから（組織を背負っていますので体にガタが来ても老人ホームにもぶれてもらえない。ヤクザの隠語で生活保護のことです）

誰にも気付かれず…

世帯類型の将来推移

	2005年		2030年	
単独世帯	1446万	→	1824万	+26%
母（父）子家庭	411万	→	503万	+22%
夫婦2人	964万	→	939万	−3%
夫婦と子世帯	1465万	→	1070万	−27%
その他	621万	→	544万	−12%

悲惨なのは団塊ジュニアの中年たち